鑑真大和上

鑑真和上（688–763、または中国語で Jianzhen）は、日本で仏教を広めることに尽力したことで尊敬される中国の僧でした。彼は仏教の法曹宗の創始者と呼ばれることが多く、薬師寺は日本の総本山です。

現在の揚州の広陵に生まれた鑑真は、14歳のときに宗教的な献身の人生を始めました。20歳で唐王朝の首都である長安（今日の西安）に行き、そこで仏教と医学を学びました。

742年に、中国で修行していた2人の日本の僧侶である栄叡と普照が、日本の宮廷の仏教の教師となるよう鑑真を誘い、日本の使者船で航路を確保しようとしていました。鑑真は12年間で5回、日本への航海を試みましたが、いずれも悪天候または役人の介入などにより妨害されました。5回目の試みで、彼の船はひどく波に揺らされ、西安の陸地に戻らざるを得ませんでした。この旅は最終的に3年かかり、白内障の手術の失敗のため視力を失いました。

動揺することなく、彼は753年に6回目の試みを行い、今度は栄叡と普照が十数年以上前にやってきたのと逆の旅で、日本行きの使者船に乗り込みました。今回、彼は成功し、754年の春に奈良に到着しました。それから10年間、76歳まで、彼は天皇を含む日本の多くの人々に仏教の宗教的教訓を教えました。初めは東大寺で、それから唐招提寺に移りました。